

## 平成26年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

1 日 時 平成27年3月19日(木) 午前10時30分から正午まで

2 場 所 徳島県庁10階 大会議室(徳島市万代町1丁目)

### 3 出席者

- (1) 委 員 21名中16名出席 (別添「名簿」参照)  
(2) 大学校幹部 飯泉大学校長(知事), 佐野副校長(県教育長)  
七條県立総合大学校本部長, 各学部長ほか  
(3) 事務局 佐々木事務局長, 阿部副事務局長ほか

### 4 次 第

- (1) 開 会  
(2) 大学校長挨拶  
(3) 新任委員紹介  
(4) 議 事  
① 会長及び副会長の選任について  
② 県立総合大学校の概要及び取組状況について  
③ その他  
(5) 閉 会

### 5 配付資料

- (1) 資料1 徳島県立総合大学校設置要綱  
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程  
徳島県立総合大学校運営協議会公開要領  
(2) 資料2 県立総合大学校の概要及び取組状況 ほか

### 6 議事概要

- (1) 開会  
(2) 徳島県立総合大学校長(飯泉知事)から挨拶  
(3) 新任委員(8名)の紹介  
○平成27年2月12日付けで新たに就任した8名の委員を紹介  
(再任委員は割愛)  
・徳島県シルバー大学校徳島校OB会副会長 石井 喜美江 委員(欠席)  
・公募委員 佐條 のぞみ 委員  
・とくしま学博士 田口 許江 委員  
・公益財団法人徳島経済研究所専務理事 田村 耕一 委員  
・建築士 根岸 徳美 委員  
・公募委員 長谷川 晋理 委員

・四国大学短期大学部教授

松永 満佐子 委員

・とくしま学博士

脇川 弘 委員(欠席)

#### (4) 議 事

委員の新たな任期（平成27年2月12日から2年間）に入って、最初の運営協議会であるため、会長が決まるまで、佐々木事務局長が司会進行。

#### ○ 司 会（事務局長）

それでは議事に移りたいと思います。

「運営協議会設置規程第4条第1項」に会長が議長となる旨定められておりますが、本日は新たな任期となって初めての協議会でございますので、まず最初の議事であります「会長及び副会長の選任について」お諮りいたします。

「規程第3条第2項」で会長及び副会長は委員の互選により定めることになっておりますが、いかがいたしましょうか。

#### ○ A委員

引き続き玉有委員にお引き受けいただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。

#### ○ 司 会

A委員から玉有委員の会長のご指名をいただきましたが、ご異議ございませんか。

<「異議なし」の声>

#### ○ 司 会

ご異議がないようですので、玉有委員にお願いをいたしたいと思います。

<会長席に玉有委員が移動>

#### ○ 会 長（玉有委員）

徳島文理大学の玉有でございます。

ただ今この協議会の会長にご選任を賜りまして、身が引き締まる思いでございます。

委員の皆様には、当協議会の任務が適切に果たせますようご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、まず副会長の選任についてでございますが、私の方から推薦をさせていただきます。いただいてもよろしいでしょうか。

<「異議なし」の声>

#### ○ 会 長

友滝委員と、本日はご欠席されておられますが、徳島大学大学開放実践センター一長の馬場委員に、副会長をお受け願いたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

<「異議なし」の声>

それでは、友滝委員と馬場委員に副会長をお願いいたします。

## ○ 会 長

早速でございますが、お手元にお配りしております次第に沿いまして議事を進行してまいりたいと思います。

まず、議事（２）「県立総合大学校の概要及び取組状況について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

## ○ 事務局

議事（２）県立総合大学校の概要及び取組状況について説明。

## ○ 会 長

ここからは、ただ今の説明に対しての質問ですとか、県立総合大学校の運営、機能の充実・発展につきましてのご意見、アイデアなどのご提言、ご感想など、委員の皆様から頂戴できればと思っております。

それでは、B委員、お願いいたします。

## ○ B委員

うちの町ではパソコン講座が大人気なんです。タブレット講座もありますし。せっかくサテライトオフィスでたくさんIT企業がいらっしやっているし、町の人と交流するためにも、（サテライトオフィスのスタッフを）しっかり使うというか。

それと、防災に関してなんですが、私も空き家とか移住のことをこの頃よくやっているのですけれども、ちょうどサテライトオフィスで2社うちの町に建築家の方がいて、地方の町づくりとか家や古民家のことに興味を持っていらっしやってくさっているんで、空き家の片づけとか防災、税金のこととかその辺の講座もちょっと組み込んでいただけたらと思います。

それから、この間、テレビ会議というものを初めて経験したんです。そうしたらすごく面白くて、向こうとこっちで。なかなか一般の方って（経験）できませんし。

今度、寂聴さんの講話があって（京都に）行くんですけども。鳴門で（の講話が）せっかく定着したのに（寂聴さんが）来られなくなったので、「まなび一あ徳島」でテレビ会議みたいにするかなと思って。（寂聴さんに）会場の雰囲気も向こうに見せられるし。そうしたら、何か臨場感のあるテレビ講演なんかできて県民の方も喜ばれるんじゃないかなと思いました。

## ○ 会 長

B委員からは、南部校の講座として非常に人気のあるパソコン講座ですね、特に美波町にはたくさんのIT企業が来ていてサテライトオフィスなども設けられている、人材も揃っているということで、南部校でも開催できないか、あるいは移住、古民家・空き家なんかの利活用についての講座も考えられないかと。

そして、先ほど県職員の企画講座の中に三元中継というのがありましたけれども、テレビ会議システムを活用した講座、そういったことも考えられないかと。

## ○ 南部校

南部校は、平成25、26年度のIT講座としまして、いろんなタブレットの活用ですとかスマートフォンの利用等につきまして講座を開催させていただきました。

サテライトオフィス企業として美波町にお越しいただいている3社の方ですが、ITふれあい活動等、地域の方々とタブレットの活用等を通じて交流を図っていただいているところでございます。

パソコン講座ですが、これらのサテライトオフィスの方々につきましては、地域での展開、職員の方々の交流も合わせてそれぞれ地域に貢献してくれています。いろんなITのノウハウを踏まえた技術の貢献とかを地域でしていただいておりますので、今後さらに、「まなびーあ徳島」の講座における展開といったところにつきましては、ご意見を踏まえまして充実させたいと考えております。

防災等についてでございますが、主に建築関係者のサテライトオフィスで検討していくことになろうかと思っております。空き家の関係、実際に定住していただいた場合の税金対策ですとか、そういったところのノウハウの提供というのも非常に大事な課題かと思っております。先ほどのIT企業における色々なPC関係のノウハウの提供と合わせまして、この「まなびーあ徳島」の講座でどのように取り組んでいけるのか、また、こういった形で取り組みに参画していただけるのかといったところは今後の課題と思っております。

テレビ会議でございますが、これは南部総合県民局内におきましても各庁舎でのテレビ会議の活用とかいろいろと進めております。講師の先生においでいただかなくてもテレビ会議に繋いでやっていくことも充分できるところでございます。

これらのご指摘を踏まえ、PC講座の活用、サテライトオフィスの展開、IT企業の方々とのコラボレーション、テレビ会議といった運営実施に係る工夫など、受講者の方のご意見をいただきながら考えていきたいと思っておりますので、引き続きご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

## ○ C委員

徳島はICT活用の先進県ということで、知事も非常に力をいれておられます。

スマートフォンが相当普及してきているんですが、これを使いこなすのはなかなか。身近に使いこなせる上手い人がいれば色々な事を聞けてすごく活用できるんですけど。特にご高齢の方とかですと、身近にそういう方がいないとなかなか使いこなせないという面があると思います。ただ、スマートフォンとかを使いこなすと本当に世界が広がるという感じですので、徳島は、多くの方が、高齢者の方も含めて、(スマートフォンを使いこなせるような) そのような県にぜひなってほしいと思っておりますので、いろんな講座をぜひやっていただきたいです。

それから、スマートフォンなどを使ったフェイスブックとかブログで徳島のいろんな魅力を発信する、SNSで個人の方が情報を発信するというのは、いま非常に伝播力もあって大きな力になっておりますので、特にとくしま学博士になったような方々をはじめ、県立総合大学校を受講されるような方々に、スマートフォンなども使いこなせて徳島の魅力を含めて積極的に発信していただけるような、そういう動きをぜひ作っていただければと。

## ○ 会 長

C委員からは、現在コミュニケーションの大変重要といたしますか、なくてはならないツールになっておりますスマートフォン、それを使いこなせる多くの県民がいる徳島県、徳島県はICT先進県という評価になってございますけれども、県民が使いこなせるための講座といったものも県立総合大学校で取り組めないか、それから、個人からの情報発信力を強めるSNS、そういった講座も組み込んではいかがでしょうか、というご提案をいただきました。

## ○ 事務局（本部長）

県立総合大学校の講座の中におきましても、ICTの利活用そういったものに向けて、パソコン講座とかいろんな講座を実施してございます。県民企画講座などでもパソコン講座の受講者は非常に多く、大変人気が高い講座でございます。

おっしゃったように、スマートフォンは活用できれば世界が広がっていきます。高齢者の方も興味を持たれている方はたくさんいらっしゃいますので、今後、使用方法とかを含め、講座としてしっかりやっていきたいと思っております。

また、SNSにつきましては、今、県のいろんな行事もフェイスブック等で発信しております、積極的に活用に向けているところでございます。

とくしま学博士の中にもICTで認定された方がいらっしゃいますので、そういった方々のご協力をいただいて実施できればと思っております。今年度はスキルアップ講座を実施しまして、しゃべり方の講習というのをやったんですけども、SNSとかICTを活用した徳島の発信においてスキルを高めてもらって更にとくしま学博士の活動をしっかりやっていただく、という取組みをしっかりとやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

## ○ D委員

まなび一歩人材バンクの現在の活用状況をお聞かせください。

## ○ 事務局（本部長）

中心になっておりますのは、やはりとくしま学博士でございます。先ほど紹介がございましたけれども、県外の県人会、放送大学の「まなびの森の講演会」などでご講演いただいているという状況でございます。皆様がさらに活躍できるように、ホームページとかでPRに努めていきたいと思っております。有力な人材バンクだと思いますので、人材登録の方々がさらに活躍するように努めてまいりたいと思っております。

## ○ D委員

顔写真が入ってないですね。名前と経歴だけではどのような方なのか非常に分かりづらい。個人情報になってしまうのかどうか分かりませんが、もう少し親しみやすくホームページなんかもお作りになっていただければ有難いと思います。

## ○ 会 長

人材バンクをさらに活用していただくためにも、個人情報の関係もございしますが、できるだけその講師に親近感を持てるような、その人となり、能力等が身近に分かるような情報発信をお願いしたいということでございます。

## ○ E委員

私も人材バンクのことをお聞きしようと思っていました。県立総合大学校の中であまり機能ができていないのは人材活用のところではないかなと思っております。

とくしま学博士については、自己完結型の学習ではなく、それから後、自分の投げかけと皆さんに提供していくという形で、第2、第3の形で学びとか教えとかされて、そこは評価します。

人材バンクは非常にたくさんの方が登録されていて、地域性とかカテゴリーで選ぶのですが、なかなか探すことが難しいんですね。私が実際にやってみて。

先だって藍住町国際交流協会の方に公的機関の方から「徳島に住んでいる韓国に精通している韓国出身の方、台湾出身の方がいませんか」という問い合わせがありました。韓国の方は紹介しましたが台湾出身の方は知らなかったのので、徳島県国際交流協会TOPIAにお願いをしました。そしてその時に、「人材バンクというのがありますよ」とお教えしました。なかなか探せないというので私も後で検索したのですが、「まなびーあ徳島人材バンク」だとすぐに出て、「徳島県」を出して「人材バンク」を出すと、例えば、「ふるさと文化人材バンク」とか、「文化教育人材バンク」、「人財バンク」、そういうのが出てくるんですね。

「まなびーあ徳島」の人材バンクはちょっと分かりづらいかなど。「これだけの人材を確保している県立総合大学校」はもっとアピールしていかなければいけないです。私のところに来るのは語学とか通訳の方の要望が多いんですけど、カテゴリーの中に例えば「外国語」「通訳」とかそういったところを特化すると探しやすいのかなと思いました。「国際関係」や「国際交流」とかだとたくさんヒットして分からなかったのので、項目をもう少し明確にする、要望がある項目は特化して表記するような形にすればいいのかなと思います。

本部主催の講座についてですが、本年度は面白い講座が開催されていて、非常に高く評価をしたいと思います。私が常々思っているのは、本部主催講座には3つのことを網羅していただきたい。「緊急性」「公共性」「地域の特性を生かしたもの」、この3つのものを網羅すれば受講生は必ず満足がいくと思いますし、主催側もこういう方を今度講師として迎えようという意欲を持たれるんじゃないかなと思います。

## ○ 会長

県立総合大学校の5つの機能の内、人材活用部門、そこが少し弱いんじゃないか、特にそこに力を入れてほしいということで、この県立総合大学校の人材バンクに関しても、サーチといいますか、マッチングするところ、なかなかそこがうまくいってないんじゃないかということ、そして、それを求める人にアピールしていくシステム、仕組みをもっと工夫して、需要に応じたように随時柔軟に変えていくような形にしていきたいというようにお話でございました。

また、主催講座につきましては、3つの基本的な原則といいますか、緊急性、公共性、地域課題への対応ということをご提案いただきました。

## ○ 事務局（本部長）

人材バンクについて貴重なご意見をいただきました。

ホームページ上でアクセスしにくいというのは確かにございますので、登録されて

いる方々の思いを本当に実現するためにも、顔写真を入れるというのはなかなか難しいかと思いますが、今後は、より使いやすいようにサービスの改善に努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それから、緊急性、公共性、地域の課題解決、地域特性を踏まえたということでございますけれども、本部主催講座はじめ各学部の講座につきましても、そういった点は非常に重要なものだと考えております。

ご紹介しましたように、今年度は「四国霊場開創千二百年」、「科学技術憲章の制定」をテーマに本部主催講座を実施いたしました。今後とも、近々の課題への対応を常に念頭におきまして、アンテナを高くして主催講座の構成を考えていきたいと思っております。

## ○ 会 長

今回、若い世代の方にも新しく委員として加わっていただいております。公募委員として今回参加されましたF委員、お願いします。

## ○ F委員

私は大学生の目線から講座などを見て感じたことをお話しさせていただきます。

大学生はまだ将来が決まってない人とかいるので、将来を考えた上で色んな講座に参加するのはとても大事なので、こういう講座があるのはすごくいいなと感じました。

しかし、大学生は県外から来ている方もいるので、免許を持っていても車がないとかその場所が分からないというだけで講座に行くのを断念してしまったりする人も出てくると思うんです。なので、市内からバスなどを出していただくとか、そこに行くまでの過程が少しでも楽になったら参加する人も増えると思います。

あとは、中学生対象の講座を最近実施したというのを聞いてすごくいいなと。私も中学生だったらやってみたかったなと思いました。若い世代の人へもっと大きく紹介してもいいなと思います。もっと素晴らしさを分かってほしいというか。若い子がいろいろ経験できるというのは将来へ力になると思うので。無料なのもあるし、お母さんからしてもタダだったら色んな経験をさせてあげたいと感じると思います。参加して興味を持ってそこからこういうのもあるんだなという風に、知りたくなる気持ち（が生まれる）というのが必要だと思うので。（講座を受講するのは）大人になってからでもいいし、高齢者の方からしたら生きる力にもなると思うんですけど、やはり若いときの興奮を私は経験してほしいなと。すごくいい経験になると思います。

また、本部ならではの西部ならではの講座があったりすると思うんですけども、難しいかもしれませんが、南部の講座を本部にわざわざ持ってきてもらって経験するというのもすごくいいなと思いました。

## ○ 会 長

若い世代に対してもっとアピールしていいんじゃないかというご提言でした。

先ほど大学校長からのご紹介もありましたけれども、県立総合大学校でも今年度の事業から中学生を対象にした講座も始めており、子ども、あるいは若い世代にその焦点を絞ったような事業も展開し始めてますけれども、更に進めてほしいと。

それから、今お話がありました大学生ということになりますと、アクセス手段があまりない、地理感がなくて分かりにくい（こともあると）。ハード、ソフトといたしますか、アクセスについての課題もあるので、そういったことについても考えていただ

ければということのご提言をいただきました。

また、西部・南部の課題・テーマも本部で実施するというような講座の展開も出来ればということでご提言をいただきました。

## ○ G委員

私は実はこの県立総合大学校の設立準備委員でした。もうだいぶ前ですけど。その時は、これで（設立）できるのかなという心配もありました。でも、今日の会議を拝聴させていただいて、素晴らしい事業に育っているなと思いました。

今もF委員が言ったように、PRがやはり少ないと思うんですよ。一般の方など、「総合大学校って何？」という人もいます。もっとPRしていただきたいと思っています。

## ○ 会長

G委員さんにはこの県立総合大学校の設立当初の時からご協力をいただきまして、現在の県立総合大学校の発展について評価もいただきましたけれども、もっと広報、PR、県民に知られることに力を注いでほしいというご発言をいただきました。

## ○ 事務局（本部長）

毎回PRについてはご意見をいただき、まだまだ努力不足かなと思っています。

先ほども紹介しましたように、講座一覧表とかホームページでそれぞれ周知に努めているところではございます。

F委員のお話にもございましたように、県立総合大学校というのは、県民の学び拠点ということでございますので、一部の人だけではなく、県民大勢の方に参加していただくということが本当に大切であると思っていますので、今はちょっと参加の少ない若い方、大学生も含めてそういう方が参加しやすいように、更に若者の皆さんがよく利用する例えばメディアとかそういう媒体を使って、例えばFM放送の中でPRを流すとか、そういった情報提供の仕方につきましても、これから細かく改善して大勢の方が参加できるように工夫をしていきたいと思っていますので、今後とも色々なご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## ○ 会長

今期新たに委員として同じく若い世代としてお加わりいただいていますH委員、本部主催講座で講座も担当していただいているわけですが、ご発言をお願いします。

## ○ H委員

今ちょうどPRの話があったのですが、ちょっと突飛なことをされたほうがいいんじゃないかなと思います。長年、真面目にというか堅実にというか、県立総合大学校を運営されてきたと思うんですよ。にもかかわらずちょっと周知されないということであるならば、これはちょっと思いきって変わったことをしてみる、変わった「まなび—あ徳島」を打ち出してみる、というのも1つじゃないかなと思いました。

## ○ 会長

変わったことというのは？ 例えば1つのイメージとして（挙げていただくなら）。



## ○ H委員

普通ないだろうという講座を作ってみるとか。「それはちょっと」「それはダメでしょう」という講座を。そうやると目立つんですよ。特化するもの、個性的なものをすると目立つので。それを全てにしろとは言わないですが、そういうものがあつた方が、色々な人の目に触れるということでプラスになるので、季節に1回ぐらいは何か楽しそうなものをされたらいいんじゃないかと。

私ですが、徳島市内の中心市街地で「NPO法人びざん大学」というのをやっております。一応、「学び」というのをキーワードにしたコミュニティ大学というような感じで、最近言葉が流行っているんですが、やらせていただいています。

元々の目的は、中心市街地・まちの中に人に来てもらいたいというのが始まりなんです。学んでもらいたいというよりも人に来てもらうために「学び」という切り口を使わせてもらってまして、色々な講座を作ってきました。今、4年弱ぐらいです。

受講生は今300人ぐらいなんですが、受講していただいている方々の間で盛り上がっているのは、「部活動」なんです。講座は先生と受講生がいて、勉強するきっかけにはなるんですけども、その後継続して出会うわけなんです。生徒さん同士とか学生さん同士が。そして仲良くなっていくんです。仲良くなってくると、同じ趣味や同じ才能とかを生かして、「何かやっついこうよ」という話に結果なって、それをきっかけに又、まちに戻りつつ、講座以外は全部部活。こちらは自主的に皆さんに遊んでもらうようなプラットホームだけを用意すると。

だから「びざん大学」は、講座は入り口で、まちに足を運んでもらって先生方と何か勉強のきっかけを作ってもらおうと。その後は学生さん同士で遊んでもらえるような部活動というのを立ち上げてもらう。

「学び」というよりも、出会うきっかけを作って、そこで活性化をしてもらう。その人たちが、また、「びざん大学」の発信もしてくれるし、また講座とは違った切り口で学び舎を楽しくしてくれるというか。僕も大学生の時の部活とかバイト先での経験もすごく生きているわけですよ。

同じタイミングで出会っている人たちともうちょっと遊びができるような、遊びができるというのはちょっと言い過ぎかもしれないが、ネットワークを作っていけるような切り口を「まなびーあ徳島」の中に置いておかれたらいいんじゃないかなと。ただそれを本部主催にすると多分大変なので、それは学生さんというか生徒さんがそういうものを起こしやすいような場を作ってあげるといった方法がプラスになるんじゃないかなと。

そうすると、先ほどのICTの話も、得意な人というのはどんどん先に進んでいるので、そういう人たちを中心にそういうサークルみたいな形をどんどん作っていくというのも1つの方法ではないかなと思いました。

## ○ 会長

県立総合高等学校の存在を世の中に広くアピールするには、中の催し物そのものをある部分特化したり、特徴を持ったものを組み込んでいく、というところが大きく役立つのではないかと、というご発言をいただきました。

人に来てもらうために「学び」を切り口にしているというんですね。「学び」そのものが最終目標じゃなくて、人の出会いの場、集いの場を作るために「学び」という

のを切り口にしているというご発言がございました。

確かに、「学び」がそれぞれ参加されることの最終目標じゃなくて、ある部分、人との出会いを求めるところが大きな機能かと思います。その中で面白かったのが「部活」。部活動の自然的な発生。そこにもっともっと着目をしていって、そこから生まれるネットワークをもっと重視していければ、県立総合大学校の成果としてということにはならないでしょうけれども、そういった自然発生的な教え合いを県立総合大学校としてもサポートする、支援するというか、そういったこともぜひ進めてほしい、といったようなご趣旨のご提案をいただいたと思います。

## ○ 事務局（本部長）

学びの場というのばかり我々は考えておりますので、そういう学びを通じた交流の場というのは、本当に大切だなと我々も感じているところでございます。

これからの地域づくりとかまちの活性化とかを考えていく上では、それぞれ県民の皆さんの交流というか絆づくりが大切でございますので、そういった意味でも、学び拠点・県立総合大学校「まなび一あ徳島」がそういう一助になればさらに効果がプラスされてくると思いますので、そういった場がどういう形でできるか分かりませんが、考えてみたいと思います。

とくしま学博士の皆さんは独自の交流の場がございますけれども、それ以外には我々も把握しておりませんので、そういった側を学びと合わせてどういう形でできるか考えていきたいと思っております。

特徴のある講座につきましては、できるだけ若い人のご意見なんかもお聞きして、それぞれのニーズに合った講座について、それぞれ各学部とも一緒に考えていきたいと思っております。色々ご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## ○ 会長

様々な県立総合大学校の講座の中から、それぞれ自然発生的な様々な交流の会が、実際にはあちこちでたくさん生まれているんじゃないかと思っております。そういったところまで視野を広げて総合大学校の運営も進めていただけたらと思っております。

それでは、同じく新任のⅠ委員、お願いできますでしょうか。

## ○ Ⅰ委員

講座の内容を改めて見せていただきまして、受けてみたいと思うような講座がたくさんありました。アピールが足りないんじゃないかなというのも少し感じました。

先ほども意見が出たんですけれども、例えば郷土の歴史とか文化、そういった講座も多いんですけれども、聞くところによると受講者の平均年齢がかなり高いとか。若い人にUターンとか移住・定住していただくというときに、仕事以外に地域の誇りとか地域の文化がこんなにあって徳島ってすごいんだっていうように、地域を知ることというのが長く定住していくということにつながっていきますので、そこはなるべく若い人たちにもどんどん来てもらって徳島のことを知っていただく時間を作っていただければと思いました。

それとICT活用の件についてですが、個人的に使ってアピールすること以上に、仕事にも商売にも使えるようなスキルアップできる講座もあつたらいいかなと思っております。徳島の小さな商店や中小企業とかは数が減っていったりしているんですけれど

も、ネット販売とかをよく皆さん利用するようになって、オンラインショップなどで全国的世界的にシェアを広げて伸びていく県内企業もあると思うので、商圈をどんどん広げるという意味で、ホームページ作成等のような講座をしていただけたら。プロに頼む余裕のない小さな企業とか商店もいらっしゃるの、まずは、従業員や経営者の方たちが関心を持つような講座をしていただければなと思いました。

## ○ 会 長

今の I 委員のご意見の中から、若い人の定住を進めるという上で仕事（の確保）というのは大変重要なんですけれども、それだけでなく、プラス地域に対する愛情とか誇りとかが大事なものになるということで、そういったことを若い人たちにより知ってもらえるような講座の工夫をするべきでないかというご提言をいただきました。

それと、ICT関係の講座も大変多いですけども、今のご発言の切り口、視点といたしましては、仕事へのステップアップといいますか、あるいはスキルアップにつながるような講座というものを繋いでいくというか、そういったことも組み込んでいければというようなご提言もございました。

生涯学習として以外にも、地域での仕事としてICTを活用していくことができるような講座も視野において取り組んでいくという点についてはいかがでしょうか。

## ○ 事務局（本部長）

「徳島のものづくり」とか、商売だけでなく製造現場・IT産業、農林水産業、様々な場でこれからますますICTを活用して発信していくというのが非常に大事になってきます。また、さらに仕事のイノベーションを図っていくというのが大事でございますので、今は確かに生涯学習的なパソコン講座が多いんですけども、これからはビジネス面につきましても、産業経済学部と分担しまして、講座開設できるよう努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それから若い人の話、「徳島らしさ」という話、先ほどもございましたように、徳島にも人口減少などの問題がたくさん出ておりますけれども、若い人が徳島に暮らしていただくためには、徳島に誇りを持っていただかなければいけませんので、徳島の歴史についてしっかり学んでいただくということが、地元への愛着につながっていく場合もあります。若い方にも、とくしま学というか、徳島の歴史・風土・自然、例えば徳島では藍の歴史とか人形浄瑠璃の素晴らしい文化がありますので、そういったことを学んでいただくということは大切でございます。これから幅広い世代が学べる講座にしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いします。

## ○ 会 長

ICT講座については、他にも様々な産業振興関係の団体、あるいはその関係機関とかでもいろいろ講座がございます。そういったものに対して何かステップアップしていけるようなことも工夫いただければなと、今ご発言をいただいて感じました。

それでは、新任の J 委員、どうぞよろしく願いします。

## ○ J 委員

今まで色々お聞きして、まだ発言されていないことでちょっと考えていることを申し上げます。

徳島のことを地元の人が愛してほしい、生涯教育も含めて色々なことに楽しんでもらいたいということもあるんですが、観光に関して、徳島県にはたくさんいいところがありますので、まず地元の人がどこにどういうところがあって、こういうところがいいですよということを知ってもらえたらいいと思いますので、それに関する講座もあつたらどうかと思います。

新聞とか報道で講座の開催などを拝見させていただいていますが、本当にバラエティに富んだ良い講座をされていて、それも続けていただきたいと思います。

## ○ 会 長

徳島県の観光で来られた方をおもてなしするについても、自分の地域の魅力についてよく知ってそれを語るができないとおもてなしはできませんね。そのための「地域の人が地域・観光の魅力を知って語るができるような講座」といったこともご提言いただきました。

## ○ 事務局（本部長）

現在でも色々な講座がございますけれども、観光客をさらに呼び込んでいくためには、県民一人ひとりが観光ガイドになるようなつもりで、徳島県の観光の説明ができたなら本当に素晴らしいと思います。

そういう1つ1つの取組みで、認知度が上がっていくと思いますので、我々職員始め、県民の皆さんが観光に対して知識を、先ほどありました地域の歴史とかも含めて、徳島のことについて学んでいただくとか知っていただく取組みというのは、これからの地方創生の中でも非常に大切でございますので、県立総合大学校の役割の中で、精一杯、観光を含めた色々な講座の提供について、各学部と一緒に、また更に充実させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

## ○ K委員

県立総合大学校の取組みについては、こういった冊子で非常に充実した講座があるということは存じあげていたんですけど、この前、奨励賞の授賞式に参加させていただいて、非常に大勢の方が参加されていて、本当に熱心に学ばれているということに改めて敬服しましたし、県立総合大学校がうまく機能しているなというのを感じました。

それに対して、放送大学徳島学習センターも地域における生涯学習の一役を担っていると、自負しているところでございます。県立図書館とも共催で「まなびの森」というのを開催させていただき、その中で、文化的な観光であるとか十郎兵衛屋敷についてなど、とくしま学博士の方にお世話になってやっているとございます。

先ほど広報の話はかなりされていたのですが、放送大学のことがあまり知られてないんですね。徳島もネットが充実し、BS放送などで見えるわけですけども、「まなびの森」で手を挙げてもらったら、いつもBSを見ているのが50名のうち4、5名しかいないんですね。放送大学という言葉もあまり知らないということで、政府挙げての大事な教育機関ですので、推進していかなければならないという思いでございます。

とくしま学博士につきましては、3名の方に（「まなびの森」で）講演をさせていただいておりますが、非常に熱心に貴重な資料で報告していただいているところでございます。

放送大学徳島学習センターと県立総合大学校の住み分けは結構できているんです。卒業する学生が全国に比べて倍の率なんですね。ということは、そういう（県立総合大学校）のがない所は全部放送大学に来てしまいますから割と卒業しないんです。徳島の場合は（受講者が）結構卒業を目指しているので、全国の倍ぐらいの割合です。

1つの提案として、公開講演会を県立総合大学校と放送大学の連携で、しかも便利な市内にある放送大学の教室を使っていたらどうか、そういう形で何か取り組めないかなと思いますので、それについてまた検討をよろしくお願ひしたいと思います。

## ○ 会 長

放送大学も、県立総合大学校と並んで、県民の学びの非常に重要な役割を果たしていただいているわけで、実際に「まなびの森」の事業なんかを通じてとくしま学博士が活躍をするという具体的な連携が始まっている、たいへん素晴らしいことだと思います。放送大学を県立総合大学校の学びの1つのステップアップといいますか、より体系的に学ぶ場として活用していただきたいというご発言も頂戴しましたが、更にそういった県立総合大学校と放送大学との住み分けの中で、両者がともに発展していくために、放送大学と県立総合大学校が連携した公開講演会を、という具体的なご提案もございました。

## ○ 事務局（本部長）

放送大学には、連携講座の実施、とくしま学博士の講演とかで大変お世話になっておりましたありがとうございます。

ただ今、公開講演会の共催みたいな形かと思いますが、具体的なご提案をいただきました。今は放送大学、県立総合大学校それぞれでやっておりますが、放送大学の講演場所というのが徳島市の中心部にございますので、先ほどアクセスという話もございましたが、若い方とか色々な方が来やすい場所でございますので、今後は共同開催なんかについても検討して相談したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

## ○ D委員

講座一覧表にはなぜ講師の先生のお名前が記載されていないんですか。

## ○ 事務局（本部長）

確かに講師の名前が入ってございません。これは多分スペースの関係かなと思いますが、いま現在は入っておりません。

## ○ D委員

名前を入れられるともう少し人が見えるようになると思います。

## ○ 事務局（本部長）

カルチャーセンター等は講座紹介で講師の写真なども入っておりますが、県立総合大学校は入っておりません。名前を入れるかどうかは分かりませんが、できるだけ内容が分かるよう工夫していきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

## ○ L委員

先ほど、若者代表でF委員が非常にテキパキした若さあふれる質問をされていて、本当に若さというのはいいなという感じで聞いていました。そのご発言の中で、「高齢者にとっては生きる力になる」というフレーズもございまして、高齢者代表として一言発言をさせていただきたいと思います。

私どもの年齢になると比較的時間の余裕ができておりまして、「まなび一徳島」の欲求というのが非常に強いというのを肌で感じております。

先ほどもご発言がございましたけれども、教育の日に総合教育センターで行われている奨励賞交付式で、本当に皆さん晴れがましい、達成感があるというか、盛り上がった雰囲気の中で式が行われているのを拝見して、この県立総合高等学校の意義というのは完全に社会的に定着したなというのを実感したところでございます。

人間は一生懸命勉強して学んで身につけると、それを社会貢献に使いたいとか、高いレベルでなくてもとくしま学博士とかで講演できる立派なレベルじゃなくても、家で使ってみたいという気持ちになるといった側面があると思うんですけども。県立総合高等学校で一生懸命勉強された方々への、先ほどの人材活用機能以外の部分で、学んだ知識などの活用・実践という場の確保について、どのようなことをされているのかというのがあればお聞かせ願えたらありがたいと思います。

## ○ 事務局（本部長）

とくしま学博士につきましては色々な場で活躍をしていただいております。それ以外の受講者の方の活躍する場というのが、ちょっと我々も把握しておりませんので具体的には分かりませんが、学部で200単位以上取った方を学部エキスパートという形で認定しておりますので、特に専門性のある分野で知識を有している方につきましては、そういった方面で色々参加してお話をさせていただくとかという話も聞いておりますので、とくしま学博士以外の方もそれぞれ活躍する場というのを作っていかねばいけないと思っております。

## ○ 事務局

県民企画講座では、とくしま学博士以外の方でも、講師として講座の自主運営をしていただいております。

## ○ M委員

西部の方からまいりましたので西部校のことをちょっとお聞きしたいと思います。こういった講座がありました時に、西部校はたくさん集まっておりますでしょうか。

## ○ 西部校

西部校は独自の講座を実施しておりまして、それぞれ定員を満たすような受講者の方々にお集まりいただいております。

## ○ M委員

（掲載されている講座を見て）非常にきめ細かく色々な講座を作っていただいているので、いつも見るたびに行きたいなと思うんですが、三好、県西部の方は山から出てきて会場までかなりの時間がかかります。

西部総合県民局で実施いただいているつるぎ町の山を歩くという講座は、県西部には山や川がありますし、素晴らしいなと思って行きたいと思うんですけど、つるぎ町改善センターに行くまでに2時間少々かかります。私の山城町の自宅でもかかりますので、東・西祖谷とか池田の方だともうちょっと時間もかかるということで、なかなか行きたくても行けないんじゃないかなと思うんです。

それで、難しいとは思うんですけど、こういった山や川を歩くような、自然と親しむとかウォーキングとか、先ほどもありました若い子たちにふるさと探訪ですね、ふるさとのいいところを見て歩いて、なおかつそこを案内できる方がついてくれるようなものをもっと作っていただければ、町単位で。山城だったら山城のいいところを、分庁舎・市の職員、講師の方を中心に、地域で転々と（実施）していただけたら、たくさんの方が参加できるんじゃないかなと思いました。

## ○ 会 長

M委員の昨年のご提言を基にフィールド重視の講座も段々と充実されてきておりますけれども、さらに地域の中で参加しやすい講座の充実ということですね。それはぜひ、地元の自治体との連携のもとにですね、さらに進めていただきたいと思います。

まだまだご意見は尽きないかと思っておりますけれども、予定の時間が残念ながらまいりましたので、この辺りで意見交換を終了いたしたいと思っております。

県立総合大学校におかれましては、本日、委員の皆様からいただきましたご意見、アイデア、ご提言を十分に踏まえていただきまして、今後の総合大学校の運営に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。